

令和4年度第4回研修会 「Well-being時代の博物館経営－博物館を取り巻く 環境の変化と経営学の諸論について－」の開催

令和4年度自然科学部会幹事 神奈川県立生命の星・地球博物館 大西 亘

2025年に設立70周年を迎える神奈川県博物館協会の歴史を振り返り、過去の協会報に掲載された特集、記念事業の記事を参照すると、前世紀中には、華々しい21世紀の博物館への期待を込めた内容が数多く見られるように感じられる。しかし、実際に迎えた今世紀の状況は当時の想像とは大きく異なるものであったのではないだろうか。特に、2000年代初頭から、日本における博物館を取り巻く経営環境の変化は著しいものであった。長引く不況に起因する厳しい財政や法制度の整備・改正をはじめ、近年では大災害やコロナ禍によって館の存廃に関わる危機的状況に陥るケースも散見される。さらに、制定から70年が経過した博物館法が、その目的や事業の見直しがなされた上で一部改正となり、2023年4月からの施行を目前としていた。

このような状況の中で、博物館は今日的な社会課題に対応した新たな社会的役割を期待されており、その声に応えるための理論・方法論を模索する必要があるものと考え、県博協幹事会、ならびに幹事会有志で本研修会を企画した。本研修では、博物館経営の今日的な課題に対する経営理論について、博物館に経営学者の立場から様々な形で関わり続けておられる和光大学の平井宏典教授をお迎えし、ご講演をいただくとともに、平井先生と研修会準備を担った幹事会有志のメンバーによるパネルディスカッションを開催することとした。

本研修会は博物館経営をテーマとして設定したが、研修会の参加者は、必ずしも博物館経営に直接携わる者ではないことが想像され、この点は準備段階において、平井先生や準備メンバーの中でも議論と検討を重ねた部分である。博物館経営を直接担う立場になくとも、研修会参加者の多くは博物館での様々な実務を通じて博物館運営の一翼を担っており、それによって博物館経営にも間接的に関わりを持っているものと考えられる。研修会を通じて、参加者が博物館に関わる当事者として、それぞれの立場におけるよりよい博物館の姿を考える機会とすることを目指した。結果として、神奈川県博物館協会のもつ、多様な館園のネットワーク、社会とのつながりという、強みと可能性を再認識する機会とすることができたように考えている。

平井先生ならびに幹事会有志のメンバー（パネルディスカッション登壇者と、よこはま動物園ズーラシア・有馬一氏）には、半年以上にわたり、研修会の準備のために、お忙しい中、度々打合せの時間を取っていただいた。また、県博協幹事会、同事務局の方々には温かいご支援をいただいた。準備にご協力いただいたすべての方々へ心より感謝申し上げます。なお、本稿は研修会開催概要の趣旨に加筆したもので、その趣旨をまとめるにあたっては、平井先生にご指導賜ったことを申し添える。